日々の祈り

2020 年 8 月 10 日（月）～15 日（土）

宮崎中部教会

＜はじめに＞

　８月は、感染予防のために祈祷会はお休みとなります。それぞれの日々の生活の中で、神さまに心を向け、御言葉を聞き、祈りをもって過ごしましょう。教会のために、兄弟姉妹のために、隣人のために、祈りを合わせましょう。

＜用い方＞

　毎日の御言葉を、可能であれば声に出して、二回以上読んでみましょう。御言葉をじっくりと味わい、聖霊に導かれるままに、祈りの時をもちましょう。

＜今週の祈りの課題＞

・神さまの御前に全ての人々がひれ伏し、まことの平和に与り、争いをやめ、共に生きることが出来る世界になるように。
・コロナ禍の中にあっても、神のご支配を固く信じ、隣人のために祈り、愛し合って歩むことが出来るように。
・病、弱さ、老いを覚えている方々に、困難を抱えている方々に、主によって慰めと平安があるように。

10 日（月）

ルカによる福音書 9 章 29～31 節

祈っておられるうちに、イエスの顔の様子が変わり、服は真っ白に輝いた。見ると、二人の人がイエスと語り合っていた。モーセとエリヤである。二人は栄光に包まれて現れ、イエスがエルサレムで遂げようとしておられる最期について話していた。

昨日の御言葉を思い巡らしましょう。イエスさまの十字架の受難と復活の栄光による救いこそ、旧約聖書、新約聖書全体が指し示していることです。神の御子イエスさまこそ、このことを成し遂げ、罪と死からの解放を実現して下さるお方です。父なる神さまは「これはわたしの子、選ばれた者。これに聞け」と言われました。この方こそわたしたちが聞き従うべきお方です。

11 日（火）

詩編 65 編 3～4 節

祈りを聞いてくださる神よ／すべて肉なるものはあなたのもとに来ます。罪の数々がわたしを圧倒します。背いたわたしたちを／あなたは贖ってくださいます。

わたしたちの罪は、はかり知れません。自分が思う以上の深刻な罪にわたしたちは捕らわれ、振り回されています。もし、そうでもないと感じているのなら、自分の罪を真剣に見つめていないのかも知れません。本当は、罪とはわたしを圧倒するほどのものであり、まともに見るに耐えないものだからです。そこに神さまの赦し、憐れみ、贖いがあると知っているのでなければ、わたしたちは自分の罪を見つめ、本当に悔い改めることは出来ません。

12 日（水）
ゼカリヤ書 2 章 12 節
栄光によってわたしを遣わされた、万軍の主が／あなたたちを略奪した国々に、こう言われる。
あなたたちに触れる者は／わたしの目の瞳に触れる者だ。

万軍の主は、わたしたちの苦しみ、痛み、困難を、ご自分の目に誰かの手が触れるほどの痛みをもって、受け止めておられます。どんなに小さな一人の苦悩も、主は耐え難いものだと言われます。わたしたちを苦しめるものの前に、この主が立ってくださいます。わたしたちがこの主のものであるということは、苦しみにあるときの大きな慰めです。

13 日（木）
エゼキエル書 33 章 11 節
彼らに言いなさい。わたしは生きている、と主なる神は言われる。わたしは悪人が死ぬのを喜ばない。むしろ、悪人がその道から立ち帰って生きることを喜ぶ。立ち帰れ、立ち帰れ、お前たちの悪しき道から。イスラエルの家よ、どうしてお前たちは死んでよいだろうか。

神さまは、お造りになったわたしたちを愛して下さっています。わたしたちが生きることを望み、それを喜ばれます。わたしたちがどれだけ神さまに逆らい、背き、悲しませても、神さまはわたしたちが滅びに向かっていくことを喜ばれません。「どうしてお前たちは死んでよいだろうか。立ち帰れ、立ち帰れ。」何度も呼びかけ、ご自分の御許に招いておられます。

14 日（金）
申命記 32 章 3～6 節
わたしは主の御名を唱える。御力をわたしたちの神に帰せよ。主は岩、その御業は完全で／その道はことごとく正しい。真実の神で偽りなく／正しくてまっすぐな方。不正を好む曲がった世代はしかし、神を離れ／その傷ゆえに、もはや神の子らではない。愚かで知恵のない民よ／これが主に向かって報いることか。彼は造り主なる父／あなたを造り、堅く立てられた方。

次の主日礼拝の御言葉です。神が選ばれ、愛され、救い出された神の民は、計り知れない恵みを頂いて歩んでいます。それにも関わらず、民は何度も神を離れ、背き、父なる神を悲しませ、怒らせるようなことを繰り返します。イスラエルの民の救いの歴史は、神さまが民の愚かさを耐え忍ばれた歴史でもあります。

15 日（土）
ルカによる福音書 9 章 40～41 節
「…この霊を追い出してくださるようにお弟子たちに頼みましたが、できませんでした。」イエスはお答えになった。「なんと信仰のない、よこしまな時代なのか。いつまでわたしは、あなたがたと共にいて、あなたがたに我慢しなければならないのか。…」

明日の主日礼拝の御言葉です。イエスさまが神の御子であること、神が遣わされたメシアであること、救いの御業を成し遂げる方であることが示されてきました。しかし、弟子たちはまだ、このイエスさまに信頼し、すべてを委ねて歩むことが出来ません。わたしたちの信仰の歩みもまた同様です。しかし、イエスさまは見捨てることなく、我慢して下さっているのです。

聖句：日本聖書協会『聖書 新共同訳』